

特別号

北斎新聞

HOKUSAI新聞 夏
2012 summer vol.9

信州小布施
画狂人・葛飾北斎の
肉筆画美術館「北斎館」

北斎館季刊誌「HOKUSAI」夏号
2012年7月発行 発行所/北斎館
〒381-0201
長野県上高井郡小布施町大字小布施485
TEL.026-247-5206 FAX.026-247-6188
(HP) http://www.hokusai-kan.com/

葛飾北斎氏 天にのぼる



九十歳まで絵を描く

浮世絵界に大きな衝撃

我が国浮世絵界の重鎮(集団や組織の中で中心となる重要な人)葛飾北斎氏は、四月十八日晩七時(午前四時頃)、浅草聖天町遍照院境内にある仮宅で逝去(死亡すること)されたとのことです。(関係記事二〜四面に)

関係者の話によると、北斎氏は今年(今年)の春になってから体調が悪く、寝床に伏す日が続く、娘さんのお栄さん(葛飾応為)がつきつきりで見守りにあたっておられました。十八日早晩(朝早く)、天にのぼられたとのことです。

今回は特別号です。北斎先生の生涯をまとめるために、普通の新聞形式(鳥居二年(一八四九年)四月二〇日)の記事風にしてみました。よーく読んでみてねー!



北斎氏は、宝暦十二(一七六〇)年、江戸本所生まれ。若くして浮世絵界に飛び込み、勝川春章門下で活躍の後、独立して次々と傑作の浮世絵を発表。代表作に、「富嶽三十六景」「富嶽百景」「北斎漫画」「諸国名橋奇覽」「北斎肉筆画帖」「日新除魔」「東都名所一覽」、また信州小布施の祭り屋台の天井画を描くなど数え切れないほどの名作を残しています。絶筆は「富士越龍」図です。絵師としての号(名前)を、たびたび変え、その名前の数は、三〇回に及んだと言います。最近「画狂老人」を名乗っていました。

一八三〇の江戸文化の成熟期には、北斎氏の浮世絵は、全国で大人気となりました。

北斎氏の葬儀は四月十九日朝四時(午前十時)から、菩提寺の誓教寺で営まれました。享年(亡くなった年齢)九十。戒名は「南院奇譽北齋居士」。



飯島虎心「葛飾北斎伝」所載の北斎肖像(いじまきよしの「かつしかほくさいでん」しよざい)のほくさいしやうざい

北斎氏の最期の言葉、明らかとなる 「本物の画工になったであろう」

北斎氏の最期の様子が、弟子の一人露木為二氏によって明らかにされました。

北斎氏は、「天我をして十年の



命を長ふせしめばと言ひ、暫くして更に言ひて曰く。天我をして五



コラム
北斗七星で
おしゃるぞ

ゲコ麻呂

葛飾北斎氏が亡くなられたとの一報は、私にとって大きなショックである。かつて本所石原町にあった北斎先生の家を訪問したことがあった。さぞや立派な家だろうと想像していたのだが、行ってみると、貧乏長屋同然の家であった。

★不思議なことに、部屋には机がない。いったいどうやって絵を描くのだろうと思っていると、畳の上に紙を広げ、絵筆を走らせている。

★私が挨拶すると、「おお」と言う

たきり、振り向こうともしない。すると、娘のお栄さんと呼ばひつけ、「客人にお茶を出せ。隣からもつてこさせろ」と言う。あつけにとられてみると、隣の小僧さんが土瓶と茶碗を抱えてくるではないか。部屋には描きかけの絵や食べ散らかしたどんぶりなどが散乱して、足の踏み場もないほどだった。★それにしても先生の身なりはすごい。布団を肩にかけて、お尻は半分こたつに入れた。どう見ても貧乏な絵描きとしか見えない。普通に人が生活するために必要なものが何もないのも驚きだった。★絵を描く、その一点だけに生きたのが北斎先生であつた。お金儲けや裕福な暮らしというところに先生は全く興味があつたのだ。北斎先生のご冥福をお祈りします。(S)

年の命を保たしめば、真正の画工となるを得べし」と言い残したそうです。つまり、北斎氏は、「天があと一〇年の間、私に命を与えてくれたなら」と言い、しばらくしてさらに、「天があと五年の間、命を保つことを私に許してくれたなら、必ずやまさに本物といえる画工になり得たであろう」と言われたそうです。

亡くなられる直前まで、絵のことに執念を燃やされた北斎氏ならではの言葉と、関係者は、深い感銘を受けています。

今や世界に通用するMANGA!



富嶽三十六景 神奈川沖浪裏(ふがくさんじゅうろっけい かながわおきなみうら)



金時酒宴(きんとししゅえん)



柳下傘持美人(りゅうかかもちびじん)

葛飾北斎氏は、宝暦十一(一七六〇)年九月二十三日、江戸本所割下水に生まれ、幼いときを時太郎と名乗りました。

四歳ごろ、幕府御用錦師中島伊勢の養子になったと伝えられています。幼いころから絵が得意で、十九歳のときに当時錦絵で有名な勝川春章に弟子入りをし、「勝川春朗」と名乗りました。

天明時代の五年(一八一五年)間、役者絵や美人画など数点余の錦絵、版本の挿絵を描くなど活躍しましたが、寛政六(一七九四)年、独立して桃山時代の俵屋宗達、本阿弥光悦などの流れを引く琳派の絵師「俵屋宗理」を名乗り、それまでとは違う北斎独自の画風を切り拓いて

北斎氏、激動の人生を振り返る

化年間(一八〇四〜一八一八)には、当時有名な読本作家滝沢馬琴とコンビを組み「権説弓張月」など読本の挿絵で、江戸の町民を熱狂させる人気絵師となりました。

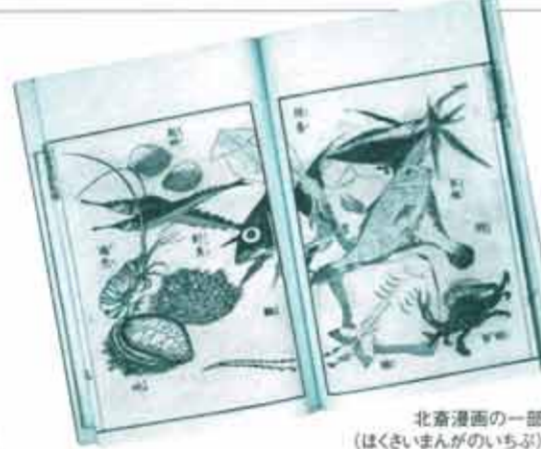
文化七(一八〇〇)年には、再び名前

を変え、「戦士」と名乗りましたが、そのころには弟子も二〇〇人ほどになり、その教科書用に絵手本の制作に力を入れます。有名な「北斎漫画」はこのころのもので、

還暦六十歳を迎えた文政三(一八二〇)年にまた名前を変え、「為」と名乗ります。この号はその後一四年間にわたり使っています。

この時代は、北斎氏の名前をもっとも有名にした「富嶽三十六景」をはじめ「諸国名橋奇覽」などの代表作を描いています。

天保十三(一八四二)年、信州小布施の高井鴻山を訪ね、鴻山の支援のもと、東町上町の祭り屋台の天井絵を描くなど精力的な作画活動を続けたのです。まさしく北斎氏は、天才浮世絵師であったのです。



北斎漫画の一部(はくさいまんがのいちぶ)



八册大夫人(はっさくおおくさう)

特別寄稿 1 高井鴻山

小布施に財産を残した北斎先生

北斎先生が信州小布施にいられたのは、八十三歳になられた天保十三(一八四二)年のことでした。先生は私よりも四十六歳も年上です。祖父と孫に近いくらいでした。先生が信州に来られた背景を考えますと、天保年間は大飢饉が相次ぎ、人々の心が荒れていた時代でした。幕府は、全国に厳しい倭約令をしき、歌舞伎



東町祭り屋台の天井絵 欄間(ひがしまちまつりやたいのてんじょうえりょうかん)

北斎氏、生活の謎

北斎氏の性格や生活には、普通の人とは違ったおかしな面がいくつかありました。それを紹介してみたいと思います。

- 1 家の中は、散らかし放題。**
食べたものや描き損じた絵の紙などで部屋はちらかっぱなし。片付ける時間も惜しかったです。
- 2 引っ越しは93回。**
部屋が汚くなると、次の家に引っ越し。1日に3回引っ越した記録もあります。
- 3 9月〜4月まで、コタツから離れなかった。**
大の寒がりやさん。お尻をコタツに入れて絵を描いていました。
- 4 食事は、出前で注文。**
食事は隣の煮売の一杯飲み屋から出前で注文していました。
- 5 身なりは、いつも貧乏な服装。**
お金はあったのですが、いつも木綿の着物で袖なし半天(半纏)を着ていました。
- 6 お金に無頓着。**
物の値段がわからず、食事代なども多く払っていました。
- 7 酒やタバコはやらない。大福餅が大好物。**
- 8 どんな偉い人にも会っても、普段通りの態度。**

北斎氏へ贈る言葉

武者絵の絵師 歌川国芳氏
北斎先生のご逝去(亡くなること)に心から驚いています。先生は私の大先輩で、年は三十八も上です。今日私が浮世絵で暮らしているのも、北斎先生のお陰です。私が若かったころ、「武者絵の国芳」などと世間様からチャヤされた時期があり、自分も、「おれは天才だ!」とうぬぼれたことがあります。先生から、「もうと勉強せんか!」と怒られ、さらに絵の勉強をしました。

残念だったのは、あの水野忠邦の天保の改革です。浮世絵などぜいたく品だと言って、浮世絵界は大きな打撃を受けました。先生も自由に絵を描くことができなかったと思います。あの改革さえなければ、先生にはもっと凄い傑作が生まれていたと思います。ほんとうに惜しい人が亡くなったかと思ひ、残念でなりません。

ドイツ人医師 P.F.フォン・シーボルト氏
私が日本に滞在していたころ(一八二三〜一八二八)、北斎氏の作品を見て、驚嘆しました。「柳下傘持美人」(図)役者絵に、西洋の写実主義の画法との違いを感じ、びびくりし、感動しました。

シーボルト
こんなすごい絵師が日本にいたなんて!

国芳
北斎先生はわたしの私の大先輩!

夏の企画展

北斎館開館三十五周年記念

日時：平成24年6月1日(金)〜9月30日(日)
午前9時〜午後6時(8月31日まで)
午前9時〜午後5時30分(9月1日より)
休館日：7月17日(火)〜7月20日(金)
入館料：大人500円、高校生300円、中学生以下無料

第一展示室(企画展示室)：夏の肉筆名作選
第二展示室(肉筆展示室)：美 人画の涼しげな衣裳、暑さを和らげるための生活の知恵、西瓜などの食材や夏の動植物を見た目、恐ろしい作品など……葛飾北斎の肉筆画の中から、夏を感じさせる作品を中心に紹介します。

第三展示室(版画展示室)：七十代の北斎版画
七十代の北斎は高齢にも関わらず、多くの錦絵(多色摺り木版画)のシリーズを発表しました。今回は全国の名所を描いた「諸国遊覧」(諸国名橋奇覽「珠球八景」、日本や中国の詩歌を題材にした「詩歌写真鏡」、怪談話の「百物語」の5つのシリーズより厳選した作品を紹介いたします。なお、北斎の描いた鳥瞰図のうち、「諸国名橋奇覽(百橋一覽)」も展示します。

第四展示室(学習資料室)：摺物版画の世界
摺物は錦絵と同じ木版画でありながら、商品として扱われた錦絵とは異なり、狂歌連など同好の人々の間で年始の挨拶等で利用されました。彫師、摺師の技術の粋を集め、摺物は贅を尽した図柄となつております。絵と狂歌のコラボレーションと言ふべき、摺物独特の趣きをご堪能ください。

第五展示室(学習資料室)：西瓜と包丁(すいかとばうちょう)



西瓜と包丁(すいかとばうちょう)

特別 寄稿 2

絵師 歌川広重

偉大な先輩の業績を偲ぶ

北齋先生は世界の美術界を代表する偉人です!



私の最も敬愛する北齋先生がお亡くなりになられた。何とも言いえない悲しみが、いま私を包んでいます。先生は私たち浮世絵師の偉大な先輩であり、我が国ばかりでなく、世界の美術界を代表する偉人です。

派が全盛の時代です。先生のように、どのグループにも所属せず、ただ一人我が道を歩まれ、画業を大成されたのは、他に深斎英泉のみで、その点からみても大変な努力家であり、並大抵のことではありません。私が先生の「富嶽三十六景」に衝撃を受け、「東海道五十三次」を描いたことはいうまでもありません。それほどこの作品は、我が国浮世絵界の宝といつても言い過ぎではありません。特に「神奈川沖浪裏」や「山下白雨」など構図のみごとさ、遠近法、静と動の対比には感服いたします。私の絵はどちらかというと、叙情的に描くのに対し、先生は題材に対し非常に乾いた目で描かれています。

世の中では、北齋と広重はライバルなどと騒ぎ立っていますが、私には大それたことで、大変迷惑しております。日本も外国船がたびたびやって来て、長かった鎖国の時代もそろそろ終わることでしょう。世界の画家たちに学び、これからの美術界をもっと盛り上げていくことが、先生への恩返しかと考えております。先生の御魂が安らかならんことをお祈りして。合掌

我が父・北齋を語る

葛飾 応為 (北齋氏三女阿栄)

私は六人兄妹の三女になります(父は二度結婚して、それぞれ一男二女がおりますので)。兄妹のなかで私だけが父の遺伝を引き継いだのでしよう。私も幼いころから父に習って絵を描くのが好きでした。いつの間にか、父の手伝いをするようになっていました。

父は世間の皆さんが言うように、本当に一日中、絵のことしか考えない人でした。自分でも「画狂人」などと名乗っていたのは、暮らしかや世間の人のことなどに興味があつたからでしょうね。その分母が苦労してました。九十歳まで生きられたの

息を引き取る最期に、あんな言葉(二面参照)を言ったのだと思いますよ。私には真似のできない、すごい人だつたとあらためて思います。皆さんには、たいぶ迷惑をおかけしましたが、父には満足の一生涯だと思えます。これで



上の手紙は、お栄さんが、北齋氏の死去を弟子の北岑(ほくしん)に知らせたときのものです。
四月十八日 深川下之橋 北岑様 栄拝
葬式明十九日朝四時
社儀病氣之処養生 不相叶、今晚七時に病死仕候。右申上度 早々如此御座候。以上 四月十八日
(北岑様、葬式は明日の朝午前十時から行います。北齋は病氣のため療養していましたが、今朝午前四時に亡くなりましたので、お知らせします)



父はほんとうに絵を描くことが好きでした

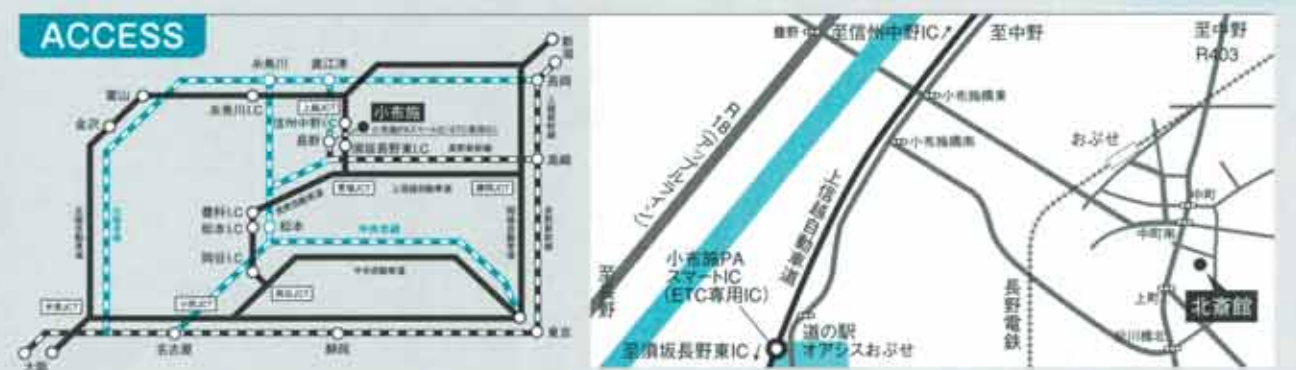
応為

北齋館のご案内

- (開館時間) 午前9時~午後6時 (8月31日まで) 午前9時~午後5時30分 (9月1日から) ※ご入館受付は閉館30分前まで
- (休館日) 12月31日 大人5000円、高校生3000円 ※中学生以下無料
- (入館料) 専用駐車場(北齋館に隣接) 大型車1,500円、中型車1,000円、普通車300円 (上記料金はいずれも3時間まで以降超過料金を申し受けます) ※満車の場合、町宮松村駐車場(有料)をご利用ください。

臨時休館のお知らせ

平成24年7月17日(火)~20日(金)までの4日間、全館燻蒸(害虫駆除、防カビ、消毒のため休館いたします。7月21日(土)より平常開館いたします。 ※北齋館駐車場は平常通りご利用いただけます。



【電車ご利用の場合】JR長野駅前「善光寺口」から長野電鉄:特急20分・普通30分→小布施駅下車:徒歩12分
【車ご利用の場合】国道18号線「豊野」信号から約10分 上信越自動車道「須坂長野東インター」から約20分、「信州中野インター」から約15分 小布施PAスマートICから8分